なんかもうどうでもよくなってきた

21144444

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト http://pdfnovels.net/

注意事項

は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ 囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範 テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。 この小説の著作権は小説の作者にあります。 このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ 小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。 そのため、作者また

【小説タイトル】

なんかもうどうでもよくなってきた

Nコード]

、作者名】

21144444

【あらすじ】

した! アルバイトしてたら前後左右が炎だったよ!外に出たら下が崖で

転生してもらうことにする。 OKなにこの冗談意味わかんないとか思ってたら神に出会ったから い出会いをして平和に暮らさなければ!.. さて、 楓ちゃ んとはもう出会えないし え?無理?

プロローグ (前書き)

稿した。 テンションだけで書いた、後悔はがっつりしているけど、何故か投

2

プロローグ

真っ赤な世界、それは幻想的だった。

だっているところが燃えてるんだもん 正直いうと、熱さに問題ありというところだが、まぁ仕方がない。

what's happen!?

とりあえず叫んだ。

頭の冷却完了

思考を冷静化

現状確認開始

右をみる、火だ

左をみる、火だ

前をみる、火だ

後ろをみる、火だ

現状確認完了

O K 絶望的

「…嫌だアア!?」

『現状を確認してみたら絶望的だったでござるの巻』

忍者ハットリ君だったら現状を切り抜けられるとか思ったら変なタ そう思って思い至ったのは、 入するシーン イトルがわいてきたよ、とりあえずどうするべきかな? ドラマである水をかぶって火の中に突

Oh! good idea!

だろ!」 「そうと決まれば水だ!山奥にきたんだから水ぐらいもってきてん

そう、 まる この現状は山奥の小屋にアルバイトできていることからはじ

三日住むだけで10万円!とそこはかとなく呪われている感しか感

じられないが、 金欠だった俺はアルバイトをすることに決めたわけ

だ。

: でこの現状だ

もってきたバッグを漁ればやわらかいもの、 ペッ トボトルだ。

「とったどォォ!」

ハイテンションでそれを外に出す。 やったねたえちゃ

でてきたペットボトルをみる

『コカ・コーラ』

ここに来るときの俺の思考に対して殺意が湧いた

背に腹は代えられ ない、 そう思ってコカ・コーラのキャップを開け

てひっくり返す。

ジョボッ

.....しょぼいというか最悪な量の上一瞬で蒸発して砂糖のみのこる

べとべとする

不快感マァァ アッッ クス!

くぁ w世d rft gyふじこ1 p;@」

意味不明の言葉を発して今の怒りを表現する、 今の俺をみれば...そう

人類全員が警察をよぶだろう。

地団太を踏んで怒りを解消すれば、 すぐに冷静に慣れた

目の前をみる

オゥイェ エエエィ

轟轟と燃える炎、その迫力はすさまじい

だがそれ故に燃え尽きるのも早い

)まり、だ

それに希望を感じ壁をにらむ 今見ている壁ももろくなっている可能性が高いということだ

: 俺 の 一撃を見せてやる!シャイニングゥゥゥ

以下省略

槌を投げれば壁が壊れた。 .. 色々とやってみたが、 壊れなかったのでキレてその場にあっ た金

俺の努力はなんだったのだろう、 なんだか死にたくなってくる。 つうか壊した瞬間にちょっと爆発し 張り手をかました手が痛い

まぁ いいや、 いくぞ!俺!かえったら楓ちゃんに告白するんだ!」

楓ちゃ ん、大学の友達で美人だが暗い女の子だ。

それ故にあまり人に近づかれないが、 それ故にズッキューンッてきた。 話してみたらいい子だった。

そして今まさに後悔している。

死亡フラグをたてたんじゃないかと

突撃開始をしているために止まれない、 というか止まったら死ぬん

じゃないか?

「つオオオオオ!

青々と茂る目の前の世界に涙がでる冷たい空気、そう俺は外に出たのだ恐ろしいくらいに風を感じる風になるような気分だった

崖ですかぁ

だけど ん楓ちゃん、 因だろ、っていうか何で火事とか怒ってやがんの意味不明、 死亡フラグたてたのが原因?そんなものなの?っていうかそれが原 とりあえず俺どうしたらいい?うん本気でそう思うん 楓ちや

そう思っていると携帯の音が鳴ったので携帯を取り出す 開けてみると楓ちゃんからのメールだった。 愛する地面へと感動の再開までまだありそうだ

たいことがあるんです。 って思ったんです。明後日、 いきなりこんなメールしてごめんなさい、 いっしょに帰りませんか?そこでいい でも決めたから言おう

.. あぁ〜

なんだろな、うん、告白だったらいいなぁ

うんでもね、無理です

うん無理~

うははこの世界なんて滅んでしまえ

バルスッ!」

ぐしゃっ

プロローグ2 (前書き)

知識が20巻までの上、にわかすぎて死ねる。でも本編はいけるかどうかわからない。とりあえずプロローグだけ終わらせる。

プロローグ2

ショートボブの女の子中学生の女の子

やぁ僕神様」

さて、 俺は何故ここにいるのだろうか、 訳が分からないよ

「あ、落下したのか」

そしてこれは落下地点か、 そう考えてたら思い出す、 そうかそうか ちょっと前のことだった。

落下してバルスッって叫んだのを思い出せるよ

に至ると」 「そして俺は空中三回転ひねりをくりだし 華麗に着地をして今

はいはい、 そんなことを思っていた時期もありましたね」

け? 手をひらひらさせて呆れたようにいってくる...えっと亜美さんだっ

ンくらい違う!」 ちっが一う違う違う、 どれだけ違うというならラーメンとソーメ

が馬鹿なのだろうか おそらく後者だ 大きな違いを見いだせない俺が馬鹿なのだろうか、 それともこいつ

加美様?女王様って自分でいっている痛い子?」

現実を受け入れるんだ。 位を総なめするその能力はよくわかった、 O K イイ、分かった、 君の現実逃避能力スキル全日本選手権第一 とにかく話が進まない、

加美様..お前がナンバーワンだ。」

理解しようよ、 「なにその野菜王子みたいなセリフ、 君は死んだんだゴートゥー まったくうれしくないうえに ヘヴンなんだ。

となんだよね?女王様ァ」 「そこは у 0 u deadっていえよ、うんごめん、 加美様はわざ

さ残るプリティーフェイスで泣いちゃうよ!?この世の我が可愛さ により奴隷志願してくるようなやつらが波となって押し寄せてくる を聞いてよ!泣くよ!?泣くよ、 やめてよ ! ? 嫌だよね?嫌だよね?だっ !間違ってないはずなのに恥ずかしいよ!っていうか話 この中学生という年齢の たら話を聞こう!」 いまだ幼

...それは嫌だな、よし!話は聞かない」

、よっし話がススマネェェェエ!」

· 『加美様はノリツッコミを覚えた!』」

· うォオオオ!話を聞きやがれェェェ!」

さっきまでの元気っ娘みたいな おちょくりすぎたのかもしれない ノリはどこにいったのやら

やれやれ

わかった、わかったよ話を聞いてやる。」

「え、ホント?」

ただし三文字以内だ」

聞くつもりさっぱりねぇよこの糞が!」

わかった、六文字だ!」

意味がある言葉を使わなきゃ不可能だよ!?」 「二倍になってもできないよ!?臥薪嘗胆とかそういう感じの深い

使えよ」

· つかえねぇからいってんだよォォ!」

...ふぅ、いい加減疲れてきたな

ちゃんと話を聞いてやることにしよう

違いしないでよね!」 べっ別にあんたのために聞いてあげるんじゃないんだからね!勘

· はいはいワロスワロス」

゙べっ別にあんたの「しつけぇ」...」

加美様とやらの変貌ぶりに驚くしかない

絶望した...アイドル系の表と裏の違いに絶望した。

:

ハッどうせ女なんて裏表あるビッチなんだよ、 ケッ」

... オォォォォオオオオオオオオッ!もう一度死にたいかァァァ

Oh、カミサマ、オコッチャイマシタカー?

「チッ 美しい女神さまなんだ...」 クショウ、 アタイは神様なんだぞ偉いんだぞチクショォォ...

「ハイハイワロスワロス」

ブチンッという音が女神殿から聞こえたがスルーしようと思う。

メアリー、 なんで僕はここにいるんだい?HAHAHA」

てなんだそのホームドラマな感じは...」

オッ Ļ それはいっちゃいけないと約束したじゃないか、 メアリ

かメアリーじゃないよ、 女神様か神様って呼べよ」

「HAHAHA、わかったよメガミー」

「なんかメアリーと同じ感じに言われた!?」

「さて、 女神様、君の話を聞かせてくれるかい?」

しろってことなのさ。 ... もういいよ、 話が進むならそれでいい、単刀直入に言うと転生

死んだから、 「そして俺は空中三回転ひねりをくりだし うん死んだからね」...わかってたのに何をいってんだ 華麗に着地をして「

うわうっぜ、こいつうっぜ」

って言ってもい まぁいいさ、ふぅっそれで、 いかい?」 転生しろって?それなんてテンプレ

いいよ別に、 能力を願えよ。 最強になれよバーカバーカ!」

じゃあナデポ」

「そこでそれかよ!」

ほかに何を願うっていうんだい女神様。

もてない男がもてる主人公にたいしてハンカチを噛んで殺す、 と考えるのは普通だから 殺す

普通じゃないから、むしろ異常だから」

所にあるもの全部ありえへんことになってればいいよ。 何故心を読んだ... まぁい いさ、よくわからないけど、 そのい

願い。 「うわアバウト、 だけど理不尽なほど簡潔的かつ絶対的最強になる

で、なんでもやれればそれでいいや。」

願い。 「うわアバウト、 だけど理不尽なほど完結的かつ絶対的最強になる

それで完了だよ。」

でおかしなやつを選んだ私って運がよいのかな?悪いのかな?」 ... なんていうか、 転生理由とか目についたからなんだけどここま

運?まっくすうれぴーとでもいってればい いんじゃないですか。

「いやだ、もう送る、もういや」

つ そう?じゃ ていっててください」 のんびりと純愛を楽しむからハンカチかんで妬ましや

でむかつく...」 「イラつく...その敬語がイラつく...ナデポ願っといて純愛願う時点

暗いくらい世界へと入り...暗いくらい世界へと出る そういう俺が目をつぶると...世界が反転する。

「...は?」

いたのは、深い森のような場所だった。

ガキィン、 ギュィンッという音が森に響き渡る。

刹那ツ!」

あぁっ!」

ドンッという銃の音さえも混じり、 ラキラと光る 刀が月の光を反射し、 たまにキ

ただいえる

なぁにこれぇ」

と、だけ。

気が付いて周りを見回し、そして見つけたのは学生証、おそらく俺

はこの学校の生徒なのだろう。

そしてこれは憑依、 というものだ。

帰り道がわからないことに呆然としていると、 音が鳴る、 人がいる

のか!?と感激して向かえばこの光景。

非常識だ、 俺がいったらおそらく全人類にリンチにあうと思うけど

ツ 数が多い!」

後ろにいる褐色な...お姉さん?もつらそうな顔をしている。 おやおや片ポニ御嬢さんが頬に汗をたらして苦しそうな声を出す。

これは助けたほうがいいかもしれない、 だけど介入していい

刀でズバーッてきたりしない?怖いんだけど

「百烈桜華斬!」

るように上に投げる。 ある石を持っていたんだが、 おやなんか技を繰り出し消滅させたぞ?大丈夫そうだな... 頭くらい 必要なさそうだ。そう思って放り投げ

でいく。 自身の力をまだ知らなかったようで、石は軽々とポーンと飛ん

「ちょ、うそだろおい!」

そう思ってあちらにいる少女たちがいるところに、 そのときだ、 ひゅうんひゅうんと加速していき、石は下へ落ちる 暗闇から巨大な影がでてくる それは起こった。

、なッ!?奇襲か!」

片ポニや褐色が驚いているが、 ろう、すぐに刀をもった少女は握り、 つかまれる。 冷静に対処すれば大丈夫だったのだ 刀を振るおうとすれば、 腕を

. な !

掴んでいるのだ、 いつの間にか、 横にほかの鬼がきている、 そのうえで...自分の刀を

はな!」

離せ、 逃げられない そう叫んで無理やり切り裂こうとして、 気づいた。

· ごめ ね、この ん」

護りきれなかった、 ごめんね、 かだろう...私はもう死ぬと彼女は悟っている。 このちゃn、 それが心に突き刺さる、 親友の少女の昔の呼び名で呼び、 だがその苦しみもわず 謝る。

だが奇跡が起きた。

『グアアツ!?』

俺が投げた石が、鬼に直撃した。

攻撃をしようとした腕が止まる、それに気づいた少女は、 んだ鬼を切り裂き、巨大な鬼をさらに切り裂く。 刀をつか

... 危なかった...」

・ 刹那、大丈夫か?」

ああ... だけどこの石はどこから」

っ た。 そういって刹那といった少女はぐるりと周りを見回し...俺と目があ

ろうか 視線がピリピリしてくる、これが警戒心をもった視線というものだ

何者だ!?」

こういうときに俺はどうしたらいいのだろうか 決めた

「うわー ?が襲ってくるよォ!」 ん!ドラえもー ん!刀をもった美少女と銃をもった美少女

「あ、ちょ!」

なんで今私のほうは疑問符をつけられていたんだ?」

後者の声から殺気が見える!今すぐ逃げなければ!...えっと加速ス イッチOn!

ま、待て!って速つ!?」

感覚はない、 「すごい速さだな...魔力の類は感じられはするが、そこに熟練した 魔力はあるが関係者ではないといったほうが適格か。

- それのほうが問題じゃないか!?」

「そもそも刹那があからさまな警戒心をもったことが悪いんだろう

龍宮の言葉に何も言い返せない、そしてすでにあの少年の姿はない。 助けられたということを一瞬でも忘れていた、 ...悪いことをし

た。

「…ぐっ、 ŧ もう見えない」

仕方がない、 学園長に報告して帰ろう。 ᆫ

…そうだな。

また会ったらお礼をしよう、 て学園町室へと歩き出す。 それで色々と聞かなければ、 そう思っ

また逢えたらいいな、そう思う。

主人公side

生徒証をみる、名前は『天音 光輝』

ある程度走り回った後に後ろの二人の気配がなくなったので一息つ

い た。

うっつ、 わからん。

ほう、 なにがだ?」

(転生後の)俺が何者かさっぱりわからん。

それは記憶喪失というものでは?」

んからどうすればいいんだろう..って誰!?」 考えてみれば (記憶がないわけだし) そうだな、 帰り道がわから

振り向けば、 金髪の長い髪がサラサラとなびきながら、 た長身の少女がいる。 西洋人形のようなきれいな少女がそこにいる。 後ろには緑色の髪色をし

なんという美少女二人組」

そう本心を告げれば小さなほうの少女が顔を赤くする。

なにをいきなりいっているんだキサマは!」

なにって、本心?」

ないということでいいな?」 ツ...話が進まない、 勝手に進めるぞ、 で、 お前は記憶がごっそり

いんじゃないですか?」

軽いな、 自分のことだというのに、 もっと驚かないのか?」

過去なんて知らないし、 何が変わろうとも俺は俺ですからね、 今を生きれば十分でしょ。 ま、それでい しし ね?

ない姿だが、 そういえば、 風貌は大人っぽい 笑い始める金髪美少女、 幼女といってもいいかもしれ

その笑い続ける状態に呆然とするしかない俺

る ついてこい、 一晩ぐらいは泊めてやる、 明日学園長に合わせてや

なんという優しき少女だな、完璧だ」

「おいていくぞ!」

「こちらです。_

おいて行かれそうだ、さっさと行かねば

エヴァンジェリンside

「マスター」

「なんだ?」

従者である茶々丸がチラッと後ろをみて聞いてくる。 おそらくアイツのことだろう

「よいのですか?泊めるなどして」

しても軽くひねってやるがな。 「別にいいだろ、 アイツに殺気は感じられなかった、 まぁあったと

「...そうですか。」

徒であることは学生証からでもわかっている。そして記憶喪失とい 実力者の力を隠せるほどであれば苦戦するだろうが、この学校の生 った事柄も嘘ではない可能性が高い。 漏れ出すほどの魔力、 気 だが感じられるのは実力者の程ではない。

こちらに確実に気づいてなかった上に独り言をきいたのだ、 る可能性が非常に低いといえる。 嘘であ

さっさと明日学園長に引き渡してやろう、 そう思いつつ家へと向か

主人公side

家に入れてもらった、 いだろうか。 不思議と甘い香りがすると思うのは俺の勘違

すが、 なログハウスといったところでしょうか、人形の多さも目につきま 女の子の家は初めてだとおもうのでドキドキします。 かわいらしい趣味だということで結論をだしましょう」 ファン

ろ気色悪い 誰に説明をしてるんだお前は...って家の匂いを堪能するのをやめ

マーキングしてもいいですか」

つまみ出すぞ!」

ごめんなさい」

言っといて変態すぎると理解した。

大丈夫か俺、テンションおかしいぞ俺...まぁいつものことだけど

「美少女の家とはこれはこれはいただきます。

どこを食うつもりだ貴様は!...でどうするんだお前は、 これから。

学園長室にいきます。

ああ」

金を奪います」

普通は部屋を探してもらって親の電話番号を教えてもらった後に病 「待て!、さっそうと犯罪に手を染める宣言をしてるんじゃない

院にいかせてもらうとかだろうが!」

おお!」

おお!じゃない!それが普通だ!」

いやわかってたんだけど、 なにいってるの?」

「うがぁぁあああ!」

無しだ。 ぶっつんとしたらしい、なんて短気な少女なのだろう、美少女が台

後ろの長身美女が、『あぁマスターなんて楽しそうな...』とかいっ てるけどおかしいんじゃないだろうか。

寝る時間ウヴォァ!!」 「まぁ今日は寝かしてもらうよ、落ち着いたら寝なさい、よい子は

蹴られた

第一話『森の中らしい』 (後書き)

全力でぶっ壊れてみる。テンション壊れ気味。

主人公をfate的に強さを教える

【 真 名 】 天音光輝

【性別】 男

属性 混沌・善

【身長】 1 6 6 c m

【体重】 5 8 2 k g

【ステー タス】

筋力A+ 敏捷 A + 耐久A+ 魔力EX 幸運D 宝具

【固有スキル】

直観 C

戦闘時に限らず、 最適な展開を感じ取る能力。 判断力と共にこれぐ

らいあれば怪しまれない。

魔力放出 C

魔力放出、 い魔力もつかってしまうし、 というよりも力任せに吹き出す感じ。 気を付けなければ吹っ飛んでしまう。 だから必要じゃな

魔術 E X

魔術という域を出ている。 すでに奇跡という域。

いや神の奇跡のようなものですけど

動体視力 Α

動きを見極める能力、 戦闘能力が低いので見えて避けられてもその

攻撃を利用するなどの戦術はできない。

マイペース C

どんな時でも自身のペースを忘れない。 高すぎるほどに迷惑である。

【 宝 具】

魔術そのものが宝具の域なため、 そういえるものは存在しない。

魔力、 魔術ともに常識など完全無視したレベルだが、 戦闘能力に関

しては低い。

そのために、動体視力が高くとも、 瞬発力が高いのでよけられるが、

反撃などはできない。

戦い方は未熟だが、 やはりスペックが高いために補っている。

才能も高いために、これから伸びる。

能力は『考えたものをできる』能力ではなく『知っている能力が使

用可能になる』程度の能力なので、 調節や強化に関しては修行次第。

筋力、 魔力、 気の力関係なしに大地を割ることができるし、 耐久、敏捷などは、 この世界『では』 ありえない程度の能力。 殴られてもす

動きも早いがぐに起き上る。

結局は気、 魔力のある人物と戦うと負けることもある。

主人公をfate的に強さを教える (後書き)

暇だからfateのステータス表示で考えてみたシリーズ・

【真名】右代宮 戦人

【CLASS】キャスター

【性別】男性

【属性】中庸

【身長】180cm

【体重】

【ステータス】

筋力E 魔力D

政連三 宝具 · 耐久 E 幸運 C

敏捷E 宝具・

【クラス別スキル】

陣地作成

魔術師ではないのでこの能力は消えている。

道具作成

魔術師ではないのでこの能力は消えている

【固有スキル】

戦闘続行 A

屈しかけたとしても再び復活する能力、 時間はかかるがどんな状況

下でも復活する。

覚醒 A

屈しかけたときに発動する。 再び舞い戻る。 回数制限あり、 全ステー タスをあげて

反撃 C

自分に不利な環境、 にステー タスがあげる。 もし くは敗北しかけているときに発動、 時的

黄金の魔術師 A

召喚魔術、 ともに魔術が使用可能となるスキル。

多種多様な召喚が行える。

魔術 B

戦人は正当な魔術師とはいえない。 黄金の魔術師が追加された瞬間に追加される。 厳密にいうと右代宮

【宝具】

『エンドレスナイン』

ランク:A+ 種別:???? レンジ・ 最大補足 -

魔術、宝具例外なく無効化する壁。

物理攻撃に対しては効果がない。

覚醒が一度発動したらこの宝具は追加される。

『青き真実』

ランク:C 種別:対人宝具 レンジ・ 最大補足 -

魔術師に対してランクは一段階あがる。

対魔力の抵抗は訪れず、 杭 剣など多種多様なタイプがある。

覚醒が二度起こした時に宝具として追加される。

『赤き真実』

ランク:B 種別:対人宝具 レンジ・ 最大補足 -

剣、杭などのタイプがある。

覚醒が三度起こした時に宝具として追加される。

『黄金の真実』

る 剣 ランク:C+ 杭などのタイプがある。 E X 種別:対人宝具 こめる魔力によって無限に威力をあげ レンジ・ 最大補足 -

黄金の魔術師のスキルが追加された時にスキルとして発動する。

『黄金卿』

ランク:EX 種別:???? ンジ・ 最大補足 -

固有結界、家具並びに右代宮家全員総出でお出迎えする。

お出迎えという名の虐殺。

この中ではすべてのものが生き返る。

【武器】

自分の持っているものとはいえないので付け足してみるだけ

『煉獄の七姉妹』

七つの大罪をモチーフにした七姉妹を召喚する。

黄金の魔術師スキルがなければ召喚不可能。

『ゼパル・フルフル』

愛によって強くなる二人。

愛を魔力に変換し、 戦人の魔力を回復することができる。

実を言うと Fa ていた時期がある。 t e Ζ e 0 で雁夜さんに召喚させる小説を書 61

最後 要としないことから、 を救って、最後に和解させたりしてい るなんて意味不明なことをやって 途中間桐臓硯をエンドレスナインを令呪をつかって拡大し消滅させ する上に、 と覚醒させ、 説内では、 と圧倒したり、 のコンテナだらけのところで一度の覚醒、 いなんてよくわからないことをしていたけど。 の最後にギルガメッシュと戦い、 キャスター エンドレ バーサーカーやアサシンにぶっ殺されたりして、 ギリギリな状態になりながらも最後まで行 のクラスの上、 スナインは対ギルガメッシュ宝具として存 いたり、 エンドレスナインは魔力を必 た、 令呪を使って黄金 時臣を死にそうなところ 桜自体は間桐の姓を返さ ギルガメ ッ の魔術師へ シュをちょ

た ので『 遠坂 雁夜は戦闘中に魔力が尽き、 の みんなを護れ』 と最後の令呪を使う。 色々あって遠坂家の 面々

ゼパル・フルフル その後色々あ 人ア ンリマユに焼 黄金卿に取 う り込んで、 た き殺される最後.. を使って愛のエネルギーをもらっ わけだが、ギルガメッシュを倒した挙句に聖杯は 黄金卿の 中ですべての召喚を還して、 を書いてい た。 て魔力をもらっ

今更だ が設定がむちゃ くちゃだなぁ と思っ

第二話『学園長という名の…』(前書き)

天音光輝「気が付けば、 いう少年は暑さで吹き出す汗をぬぐいながら笑みを浮かべる。 目の前が火の海・ ・そんな中、 天音光輝と

「... へっこれが絶対絶命ってやつか」

楽しんでいる、そんな戦人の目。 そういいながらもその顔は絶望をしておらず、 寧 ろ -- 今の現状を

はあきらめな 彼の脳内に絶望という文字はないのだろうか いという言葉のみがあった。 - - いやこの男の頭に

つけたぜェェェ!」 に木は燃え尽きて脆くなる・・そこをいっきに突き破る!あぁ 「火の海?ハッダメだな、 全然駄目だぜ...!火が強ければ強い : 見 ほど

始めている壁、わずかな一点、 ニヤリと笑みを浮かべる、 その視線の方向にはボロボロと燃え尽き だがこの男は自らの眼力でその希望

を手繰り寄せた・・!

「オォオオオオオオオオオッ」

咆 哮 -彼は走り出す。 !それはまるで巨大な動物の咆哮のような迫力を続かせて、

のこの手が光って唸るー お前を倒せと輝き叫ぶ

シャ イニングゥゥ ゥ フィ ンガアアア ァ ア

爆 発 -この高さ、 そして脱出、 くら彼でも死んでしまう。 だがそれは空中に放り出されてのだ。 その顔はとても悔しそうだ

゙チックショウッ!」

た。油断大敵とはこのことだった。 嵌められた、壁をわざと薄くしての二重トラップ・ - 敵を侮ってい

嘆いてももう遅かった。目をゆっくりと閉じて覚悟を決めた男は、 ただ一つの後悔を言葉にする。

「楓 : !」

・・そして彼は...死を迎えた。

神「おい、 けて書いてみただけの糞小説だ。 プロローグを改ざんするな。 この小説は作者がはっちゃ

第二話『学園長という名の…』

「う...うぁ...金髪幼女に蹴られる夢を見た。」

「ほう、何発でも蹴ってほしいのか?ええ?」

「ごめんなさい」

起き上ってまっすぐと少女を見る。蹴りつける当の本人が目の前にいた。

「なぁ」

, む、なんだ?」

「撫でていい?」

蹴られた。

ただ撫でていいか聞いただけだというのにこいつは...

「いきなりなにをいってるんだキサマは!」

サラッサラだと撫でたくもなる、 じゃああの長身の...」

「茶々丸です。」

なでていい?」

マスターの許可があれば...」

「ダメだ!絶対に撫でさせるな!」

「チッ」

「舌打ち!?」

퇅 ごろう、妥り花がらがみえる。 そんな会話をして朝食をもらって外にでる。

春..だろう、桜の花びらがみえる。

のはこういうものなのか?」 「輝かしい朝というものだな、 生まれ出た赤子の最初の朝というも

知らん、それよりもさっさといくぞ。」

えぇーこの朝を堪能しようよエヴァたん。」

「黙れなれなれしい!」

「じゃ女王様。」

かマクダウェルさんとか!」 「ぶっ飛び過ぎだ!ほかにあるだろうが、 エヴァンジェリンさんと

マクダウェルさん

「気色悪い。」

だったらなにがいいんだよ、 エヴァンジェリ・ エヴァンゲリ

オンさばとっ!?」

間違った言い直しをするな、 誰が人型汎用決戦兵器だ!」

るとは思うが、家にそんなものは置いてありそうな気配はなかった .. 完璧にいえるとはすごいな、 し、記憶力が高いのか? ある程度オタクはいっていればわか

まぁそんなことはっきりいってどうでもいいんだけど

「もういい、エヴァでいい…」

ありがとう、 よろしくエヴァさん茶々丸さん。

ああ... _」

はい。

かう。 疲れたように返事をするエヴァさんをおいて、さっさと学校へと向

学校へとすぐ到着する、 ていくと、 声をかけられる。 ... デカい学校だな、 なんて思いながらつい

あれ?エヴァンジェリンさん?その人は?」

振り向けは、 ツインテー ルの少女と、 大和撫子のような少女がいる。

おはようやな。 それと近衛このかや、 よろしゅ な。

, ああ、おはよう。」

「おはようございます。」

どうも、 天音光輝です。 学園長室に用があってきました」

「神楽坂明日菜よ、よろしく。」

るんだろう、 そう自己紹介して学校をみる、 学園長室 ...そういえばなんで女子中学校にあ

... エヴァ、 なんで学園長室ってここにあるんだ?」

む?...そういえば何故だ?中心にあるわけでもないが...」

「中学生が大好きだとか?」

「どこの変態よそれ。」

ろう。 アスナさんのツッコみ...冷静な突っ込みだが、 それならなぜなのだ

「だったら... なぜだろう、おぉ家が近いとか?」

「家は遠いが。」

.

ŕ 予鈴がなりそうね、 Γĺ いきましょこのか!」

「あ、そ、そうやな、まってなアスナー.

はいってしまった。 予鈴がなる、とかいいつつも予鈴まで三分もありそうだが、 彼女ら

答えは出せずじまい、結局そのまま学校へと入る。

チクチクと視線がつきささったあとにエヴァと茶々丸へと視線がい 外される、それを何度も繰り返されて学園長室へと到着する。

常識的な行動とはないのだろうか。 そしてノック はしないで押しかける。 この人には目上に対する

マスター のほうが目上のようなものですから。

茶々丸さんがいってくる内容が意味不明だ。

マスター = エヴァ

エヴァ > 学園長

だがそれは恩人に対する浅はかな侮辱、 この公式からエヴァ= ロリババアという可能性にたどり着く。 そんな俺に育った覚えはな

学園長= ショタの可能性がでてきたりするエヴァは中学校の制服をきていることも考えて

じいさんがいた

エヴァは変態だったのか」

中学生の制服を着るババアだったのかエヴァは

何を考えていたか知らんが皮を剥ぐぞ」

怖いなアまったく

部屋へ入ると、おっさんとじいさんがいる。

老人だ。 ダンディズムあふれるようでどっか抜け落ちている人と、 頭の長い

て育ちは知らない、 「お初にお目にかかります、私天音光輝と申します。生まれは忘れ そんな男であります」

「フォッ フォッフォ、 はじめまして、じゃな。学園長の近衛近衛門

うん、 はじめまして。 高畑・T・タカミチだよ。

... 自己紹介を軽くスルーされた。

後ろでエヴァが吹き出した音がする、 あとでいじくってやろう

「バルタン学園長」

「バルタン学園長!?」

ブフゥッという音が鳴り響く、 した音だった。 エヴァと高畑といった男性が吹き出

高畑くん?」

「い、いえなんでもありません。」

住んでいるところを教えてほしいんですが。 フォッフォッフォ」

ぶふっつ...くはっや...やめろ腹が痛い」

だけなのに エヴァが何をいっているのかわからない、 ちょっと真似したかった

失というのは本当らしいのぉ」 っ む う ...住んでいる場所だが男子寮の304じゃ、どうやら記憶喪

はい 記憶喪失になってエヴァに恋しました。

ってこい」 な、なにをいっているんだキ「冗談です。 」...茶々丸、 ペンチも

「ごめんな「マスター、 もってきました」速い!」

驚きの速さだ!やめろ!じりじりと近づくな!

`...話を進めていいのかの?」

...あ、すいません、この金髪バカが。.

「...本気で殺してやろうか」

ごめんなさい。

すまぬが...刀をもった少女と銃をもった少女に見覚えないかの?」

...刀、片ポニ少女の刹那ちゃんか

... 銃、美人なお姉さんか

打ちまくってたこれまたラリった女性ですか。 「変なものに向かって刀をふっていたラリった少女と、 ᆫ 銃をもって

ラリ... いやの、ふむ... これは教えたほうがいいのかの?」

それが学園長が決めたほうがいいと思います。

「教える?あれですか、女子中に学園長室をつくる理由とかですか

「ほう、それはぜひとも教わりたいな。.

この世界には魔法があるんじゃ。

第三話『長い頭のファンタズィー』 (前書き)

り回す少女、銃を変な怪物にぶち込み続ける...少女?だった。 天音光輝「記憶喪失になった俺をまっていたのは、 ?どこからこの銃弾がきた!」 ラリッ て刀を振 うぉ

??「チッ」

会った学園長は、 ベラベラと魔法の存在をしゃべり始めるのだった。 大な学園都市まほらのトップのもとへと行くことになる... そこで出 れ逃走することにきめ、逃走したところでエヴァンジェリンと出会 解していなかったために放り投げたかと思ったら大きく放物線を描 天音光輝「...美少女二名が怪物と戦っておりましたが、 い、夜も遅いので保護してもらって、次の日学園長、つまりこの巨 いて、窮地に落ちている侍美少女を助けたのですが威圧感を向けら 見られてしまっては仕方ないと頼んでもないのに 俺 の力を理

学園長「色々とおかし 倒しとる!?」 い部分を打ち消した挙句の果てにサラリと罵

この世には魔法があるんじゃ

「・・その言葉を聞いたとき、僕の中で常識という壁がガラガラと

崩れていくような、そんな感覚が起こる。

それは言いようのないもので、「ええいさっさと話をすすめろ」こ ろうものですかフォッフォッフぉ」 の世には魔法があるんじゃよ、フォッフォッフォということでよか

もうそのネタやめてくれないかの?」

嫌です。

即答!?」

「とりあえずいうと、 貴方の長い頭の中にはきっとファンタジーが

詰まってるんですね」

そしてスラリと罵倒!?」

リリカルマジカル学園長ですか。」

想像してみた

3秒で脳が拒否して消去された。

おいヤメロ、想像してしまった。」

てきます。 エヴァンジェリンさんもお怒りのようで、 殺気っぽいものをぶつけ

...それと高畑先生や、腹を抱えてこらえてないでさっさと話を続け ましょう。

...高畑君?」

く...が、学園長をわる...くく いっちゃ...ゲフゥッ」

ダメだ、これは。

話が終わらない。

これは話を続けなければこの話は終わらないだろう。 これはおふざけをやめてちゃんと聞かなければ...

48

だが断る。

れで長い頭ともおさばらよ 「てくまくまやこんてくまくまやこん女子中学生になぁ~れ こ

「ブフォォッ」

私近衛近衛門14歳女子中学生!花も恥じらう乙女なの!」

「も...もうやめ...」

「やん!エッチな風ね!」

「ぶ...く...は...くくく。

やだっもしかしてナンパ?近衛門ちゃんは安くないんだぞ

'い...息が.. !」

後ろで爆笑している金髪幼女は無視として。学園長が高畑先生をみる眼が絶対零度だ。おやおや高畑先生が死にそうなうえに

...もうやめてくれんかの...」

本気で疲れた顔をされてはやめるしかないだろう。

死にそうな高畑先生はほっといて

近衛門はとっても怒ると怖いんだゾ

「ベフゥッ!?

…あ、死んだ

「ごほんごほんごほんつ、 えー魔法なんじゃがのぉぉ!」

無理やり話を変えようとしている近衛門ちゃんかわい

色々とあるのじゃ!」 つまりは精霊の力を借りて呪文を唱えてやるものでのぉ、 種類は

スタンダー ドな魔法だね。 変身呪文で女子中学生に変身よってか。

もうやめてくれんかの...」

「うん、今はやめる。」

「できればずっとやめてほしいんじゃが...」

うん、それ無理

があるわけなのじゃ。 「というわけで、この世に魔法があり、 正義の魔法使いというもの

へえ、正義の魔法使いか、ぶっちゃけどーでもいいや。

のじゃが。 「ふぉ?てっきり正義の魔法使いとかに興味を示してくると思った

... まぁ男の子ならそうだろう。

だが俺はアルバイターの上死んだ身、 そんな感情は起きないよ。

「ぶっちゃけ生きていければいいんですよね。

わしよりフケとらんか?」

14歳女子中生は言うことが違う。」

.....

おんやぁ?シカト決め込んできましたかね?

よ?」 ۱ ا ۱ ا い近衛門ちゃん、 女の子にも辛いことがたくさんあるんだ

ゃ . さて、 そういえばどうしてあんなところにいたのかのぉ?」 お主のことじゃが、 住んでいる場所も学校も特定済みじ

それを俺に聞きますか?」

をする。 いい感じに話を変えてきやがった、そう思いながら俺は普通に返答

... すまんかったの、 たからてっきり忘れておった。 返答に記憶喪失といったものを感じられなか

まぁ いいですけど、 俺ってどうすればいいんですか?」

枚の紙を渡してきた。 素直に謝ってきたために軽くスルーして聞いてみれば、 学園長は一

そこに書いておる。_

そうい そして一枚の手紙のようなものを渡してきた。 われて見てみると、 たしかに住所らしきものが書かれてい . る。

「これは?」

なったかもわからない上に、先ほど魔法使いの話をしたじゃろ?そ のせいかもしれぬ、 「うむ、これはの、 だから治療費くらいは負担しようと思っての。 病院の紹介状というものじゃ、 何故記憶喪失に

そう思いながら手紙をもらう。 気前のいいじいさんじゃないか。

゙…というか、魔法使いのせいとは?」

いがいるのでの、 「世界樹というものがあるじゃろ?この土地に、 撃退をしているのじゃが 戦いをみたじゃろ?」 それを狙う魔法使

「そうですね。あの娘たちは大丈夫で?」

あぁ大丈夫じゃよ。」

は安堵した。 ありがとう、そういわんばかりの笑顔でそういわれたとき。 俺の心

な なんて思って、そのらしくなさに笑いが込み上げる。 ふざけた去り際だったが、 それでも結構心配していたのだろう

・そうか、じゃあ俺はいくよ。.

そういって踵を返すと、 呆然とした金髪幼女がいた。

·...どした?」

「金髪バカが。

殴られた。

第四話『中二病と黒歴史』

俺は紙を一枚持って中学校を出る。 学園長室を出たそのあとの話。

やれやれ、終わったなア」

「それはよかったな、では行くぞ茶々丸」

「それでは光輝さん」

気が付けばエヴァさんと茶々丸さんたちが歩いていくところだった。

「まってください!」

・・しかし、ここまでされて何もしないとしては、 我が人生の恥。

故に呼びとめて、 何か感謝をしなければ。

「なんだ?」

振り向くエヴァさん。

お礼に料理を作ります!」

ほう、 料理が上手いのか?」

いえ、 全然」

ならなんでいった!?」

言いツッコミだエヴァさん。

てください。 「しかし、 何かお礼がしたいのも事実です、 だから楽しみに待って

「…きたいしないでまっている。」

わかりました、 がっかりしないレベルのものをもっていきます。

「お前はとことん失礼な奴だな?!」

冗談です、全力でうれしがるものをもってきますよ。

アさん。 そういうと、 ふんと鼻を鳴らして中学校のほうへといってくるエヴ

クリュー ぶちかますようになるぐらいのを」 「エヴァさんが『オフォョフォョ』と笑いながら道行く人にコース

「どんなのだそれは!?」

0 h... こいつぁ驚いた、 ツッコミのために戻ってきやがったぜ?」

気を取り直して自分の部屋へと向かおう。

よし迷ったぞ

... すげぇぜ俺、二行で迷子になった。

き延ばそうなんて考えてないんだからね! べっべつに作者がにわか乙とよばれるほどに原作知識がないから引 そんなメタな発言は置いておいて、これからどうするか。

... そんなことはどうでもいい、ハッキリ言おう、 会社員の人生くらい迷っ い迷っているかというと会社をリストラされた二人子供と妻がいる た。 迷った、 どのくら

一何故、森にくる。_

石が粉砕されているところをみれば、 つかったところだ。 気が付けば自分が知る、 己が始まった場所、 ここは俺が石を投げて鬼にぶ 森

魔法でも使ったのだろうか、 あの戦いの跡はすでにない

- よし。

自分の力を存分に使ってやろうじゃないか。迷ってはみたものの、これは好機だ。

つくせェェェ!」 我が暗黒の右腕よオオオ !自らの力を解放しィ イ敵を破壊し

ししん

ください。 なにこれ死にたい、とにかく穴に入ってそのまま埋められたい。 なんて漫画なら出ている音が聞こえて気がする。 いや別にちょっとかっこよくいってみたかっただけなんです許して いやなんていうか本当に死にたい。 もう言葉で表せられない。

半笑やドンビキな顔で俺を指さすのはやめてください、

お願いしま

うオオオオオオオオオ*オ*オオオ!」

神よ、 全力で謝ります土下座します、 この力の使い方教えてくださ

そう心で念じた瞬間に・・世界は変わった。

吸う。 気が付けば目の前に神様、 神様は俺をみて、 おもむろに息を大きく

どんな気持ち?ねぇねぇったらー」 だろって確信してやったっていうのに何にも起こらないけどねぇ今 ねぇねぇどんな気持ち?中二病っぽいことにあこがれて、 できる

この神様い く直立だ。 い笑顔でそんなことをいってくる。 俺はあのAAのごと

·というわけでどうすればいい?」

わけでどうすればいい?」...わかった教える。 「さて、もう一度や「というわけでどうすればい ۱۱ ? ね「という

なんていい人なんだ。俺が真摯にお願いしたらOKをくれた。

使える、 っていうのは『知識のみ』なんだよ、 この能力はなんでもやれるっていうのだけどさ、 それだけの話。 こんな能力があった、 なんでもやれる だから

・つまり、俺の暗黒の最強の腕は?」

中二病乙、できません。

::__

ついでにあれは監視している魔法先生にみられてました。

……あれ、戻ったらとりあえず全力で石に頭を叩きつけて自害した くなってきた。

「ていうか...監視って...」

でしょ?」 「そりゃいきなり膨大な魔力と気を持ち始めた人が来たら警戒する

... 反論ができない。 その通りである。

だが、黒歴史が見られてしまったことに対し...俺は死にたい、 で死にたい。 全力

「いやまて、

夫だよな!?」 なんでもできるんだから記憶を変える力を使えば大丈

いいと思うよ?じゃあいってらっしゃい。 もうもどってくん

気が付けば・・俺はもりのなかにい解説なんかいるかぁあああ!

「円を使用!近くにいる敵を察知、発見!」

魔力放出スキルを使用、超高速で接近!

「な!?は、はや。」

うるせぇ 忘れろ!

「天音光輝が命じる!忘れろォオオオ!」

・こうして俺の貞操は守られた。

第五話『失ったことと得たこと』(前書き)

天音光輝「高額収入の胡散臭いアルバイト、高収入につられていっ !じっちゃんの名にかけて!」 こは崖、巻き起こる殺人事件...この不可解な事件、解決してやるぜ てみると、それは敵の罠だった。 周りには火、そして外に出ればそ

神「死ぬのはあなただけです。

第五話『失ったことと得たこと』

エヴァンジェリン・A・K・マクダウェルの朝は遅い。

「マスター、起きてください。.

席に座り、 ほとんど同じといっても、朝は弱いのだろう。 やはり吸血鬼、真祖の上封印やらなんやらで魔力が全くなく少女と 従者、茶々丸に起こされて、フラフラと起き上る。 いまだボゥッとする頭を回転させながら飲み物をとり、

目が少しさえた。 — П -・喉を鳴らし、 食道を通っていく感覚。 飲む。

・やぁ」

・天音光輝がいた。

「ぶっふぉおぉおおおおお!?」

「残像だ。」

飲み物を吹き出すエヴァ。

そして天音光輝は・・

そのまま吹き出してくる飲み物が直撃した。

できないよね、 うん、 どうやってやるかわからんし。

そういってため息を吐いて、 布巾を手に取り顔を拭く。

「な、な、ななな何故キサマがここにいる!」

来たから」

「そうじゃない!理由だ!」

ひとりぼっちはさみしいもんな。.

「意味が分からん!」

やれやれといった感じで天音光輝はため息をつく。

たら」という言葉と共に、チラチラとみてくる...そんな空間を」 いるルームメイトの「...だ、大丈夫か?いってくれよ、 「わかってくれよ。 - 記憶喪失の少年をみる眼を... 一緒に住んで なんかあっ

「...な、なんかすまない。_

見ないで。 ひきつり気味の顔でエヴァさんが謝ってくる。 やめて、そんな目で

゙で、食べに来た。ごっつぁんになります。」

八ア、 お前を保護したことをちょっと後悔しているよ。

むしろここに住みたい。

それは絶対にやめろ」

れる。 そんな馬鹿な会話をしていると、 茶々丸さんが朝食を持ってきてく

並べてくれるその姿をみながら、 ふと気づいたことがある。

「あれ、いっしょに食べないの?」

、私はガイノイドですから。_

「ガノトトス?」

茶々丸のどこが水竜だ。 高圧水流も出さんぞ。

... この幼女は何故わかるのだろうか。 いや、モンハンをやればわかるだろうが、 速効ツッコむやつなんて

結構頑張ってる人だ。

ガイ ノイドとは女性型のアンドロイドのことです。

へぇ...女性型のアンドロイド。

: は?

え?アンドロイド、 いやまてよなにそれ怖い、 どんな科学のレベル

をもってるんだこの世界!?

どんな奇妙奇天烈さだ!

次に読者は『お前が言うな』と考える!

「食べれないのかぁ...」

いえ、 必要がないだけで食べることはできます。

... 食べることができるだと...!?

消化できてるのか!?食べたものはどこにいってやがる いやまて、 食べることができるアンドロイド、 洋風の街並み... ふ

つ わかった、 わかっちまったぜ...

この事件の犯人がな!」

コナン君風になにをいっているんだお前は。

この子はたぶん、 エヴァさんの ツッコミはスルーして、 自分をロボットとしてロールしているんだ。 ゆっくりと俺は顔をあげる。

ネトゲでいうあれだよあれ、 ネカマ的なやつ。

あいやまたれい!」

いきなり時代劇風になったぞ。

ない。 事をしてみてはどうかな?」 「そこの女子、お主のことはよぉ お主たちはいわば一心同体のようにみえる、 くわかった、 しかしそれではいけ ならばともに食

時代劇風を続けるのか...」

呆れたような顔をするエヴァさんをさらにスルーする。

ですが...」

そういってエヴァをチラリとみる茶々丸。

やだやだ、絶対に一緒に食べる!。」

は面倒だ。 駄々っ子かキサマは!…まぁいい、 茶々丸も席につけ、 騒がれて

· はい、マスター」

をとって席に着く。 ハァとため息をついてエヴァさんがいうと茶々丸さんは自分の料理

その光景はほほえましかった。

生前は一人暮らしをして結構立ってて、 たりしたからな ちょっとホームシックだっ

「なんか、懐かしい感じがする。」

そういって笑うと、 エヴァさんはちょっと苦い顔をした。

「...不安か?」

何にもなくなっちゃった気がするからなぁ...」

記憶喪失、 何もなくなっちゃったというのは共通だろう。 というか転生でこの体の記憶がないだけだが。

「なんか、懐かしい感じがする。」

が…こいつは記憶喪失だった。 その言葉を聞いて、 思い出す。 こいつが軽々しいもので忘れていた

無くなった記憶と今の光景がうっすらと重なっているのかもしてな

「...不安か?」

笑った だから、 ちょっと聞いてみた。するとアイツはちょっと悲しそうに

何にもなくなっちゃった気がするからなァ...」

さみしそうに、 今にも泣きそうな口調でそういったアイツ... 天音光

輝は笑う。

空元気だということは見て取れた。

...お前の親は死んでないだろう?気遣ってくれるやつらもいる。

エヴァさんもいるしね。

「む...あ、あぁ。」

嬉しそうに笑いながら自分...エヴァ フォロー、 なんて自分には似合わない言葉をかけると、 の名前を出してくる。 天音光輝は

その顔が、ふとアイツと重なった。

無邪気な…そんな笑顔が。

よし、ならば毎日でもきてやろう。

つまみ出すぞ。」

- side end

- side 主人公

この世界で初めて友達ができたぞ!

ちょっとうれしいです。

食べ終わり、 エヴァさんと茶々丸さんにお礼をいって外に出る。

気持ちが軽い、もう何も怖くない!

... あれ、なんかフラグを立てた気がする。

·...まぁいいか。.

そういって気持ちを切り替えて歩き出す。

いざ向かうは新たなる学び舎!

「待ってください!」

.. と思ったら呼び止められた、 そちらのほうをみてみると・ - そこ

にいたのは

刀を振り回してたラリってる少女!?」

「ラリッ!?...ち、違います!」

・そこにいたのは、刀を振り回していた少女だった。

第五話『失ったことと得たこと』(後書き)

もうすぐきれるストックが

71

第六話『魔法剣士キリサキ刹那』(前書き)

天音光輝「」

神「...え?なにもいわないの?」

72

第六話『魔法剣士キリサキ刹那』

しゅー んかー んー目と目があう^

「刀を振り回してたラリってる少女!?」

「ラリッ!?...ち、違います!」

こんな会話が出会いだった。

- side:刹那

学園長から、助けてくれた彼、 『天音光輝』というらしいが、 彼の

場所を教えてもらった。

記憶喪失、ということに驚いたが、 お礼のために手伝う機会がある

かもしれないと思う。

魔法のことは伝えておいたらしい、 お礼を言わなければと思い彼の

部屋へと向かえば、 そにいたのはルー ムメイト一人だった。

~その間のルームメイトとの会話~

「はぁ…」

「なんで俺こんなにがっかりされてるの!?」

「何でいないんですか...」

あのさぁ、光輝のやつに伝言しておこうか?」

「はぁ...帰ります。.

あ、あれなんだろう涙がでてきた、エへへ。」

終了~

がっかりしながら帰ってみると、 ・・そこにいたのは彼だった。 人の気配を感じて視線を向ける。

何か嬉しそうだったが、思わず駆けだして呼び止めたら・

. 刀を振り回してたラリってる少女!?」

゙ラリッ!?...ち、違います!」

最初の発言がこれだった。

- side:天音光輝

あ...ありのまま 『歩いてたら昨夜刀を振り回していた少女とであった』 今 起こった事を話すぜ!

な...何をいっているかわからねーと思うが。

..大丈夫かな?いきなりズバァーって斬られないかな?

流れた。 「この痴れモノが!」とかいいながらガンガン切り裂くイメージが

殿中でござる!殿中でござる!意味わからないけど。

「斬らない?」

「斬りません!」

「刺さない?」

「人をどう思っているんですか!?」

「刀を振り回して怪物を切り裂き続ける少女。」

そう率直に返答すると、少女はorz こんな感じになった。

あれは必要なことで、仕事のようなものなんです!」

一刀で切り裂くだけの簡単なお仕事です...」

簡単でもありません!」

仕方がない、ちゃんと聞いてあげよう。何故かムキになってくる少女、刹那。

「あぁ、ちゃんと聞こうじゃないか。」

ございます。 なんか偉そうなところがイラッときますね。 ですが... ありがとう

あぁ、 その前にかくかくしかじかっていってくれない?」

「え?かくかくしかじか...ですか?」

わかった、 昨夜偶然とはいえ助けてくれたこととにらんだことに

対するお礼と謝罪だね。」

「えええええええぇえ!?」

何故わかった、 といった感じだけど...推理すれば簡単だ。

「何故わかったと言いたげだな。」

「は、はい。」

呆然としながらも頷いてくる刹那、 (Sword wilding Girl) 刀振り回し少女、 略してSWG

いま恐ろしく嫌な名前を付けられた気がします。

「気のせいです。」

ハァ...それはいいとして、どうしてわかったんですか?」

「バーローそんなこといえっかよ。.

「何で!?」

よるしこの学園都市内でのことなのだろう。 この世界の人々はツッコミのレベルが高いのだろうか、 エヴァといいこの娘、 SWG刹那ちゃんと言い、 しり いツッコミだ。 いや環境に

ツッコミ学園都市と呼ぼう。」

やめてください。」

考えてみると恐ろしく不名誉だが・・それを突き通す。 24時間この学園都市を『ツッコミ学園都市』 と呼ぶ

でごわすよ!」何ていうから教えるしかないよね。 くれないなら日課の裸で学園一周をあなたの名前を叫びながらする まぁ なんでわかったんでごわすか!夜も寝られないでごわす!教えて 何故わかったかということを教えなければね。 ᆫ 刹那ちゃんが

すか?!あぁもう突っ込みどころが多すぎてツッコミきれません!」 なに捏造しているんですか!?それ以前にその語尾はなんなん で

「いいツッコミだ...だが30点・・赤点だ。」

何をかっこよく意味不明なことを言ってるんですか!?」

だらしがない、 ツッコミ疲れたのか、 これをあと一時間は続けようかと思っていたのに。 ハァハァと息を切らし て いる。

「殺す気ですか!?」

ダメだよ刹那ちゃん、 メタなところにツッコミいれちゃ。

だろう?基本助けただけで別に声かけあう仲でもないし。 の様子をみるとちょっと申し訳なさそうなわけだし、 々なことを教わった。 たらにらまれて「あ、 推理は簡単だよ、 昨日結果的とはいえ助けた、 お礼を言わないなら会おうとすることもない 俺死んじゃう」 って思ったときぐらいだ。 それに学園長に色 謝罪もあると それ で 君

そこまで恐怖を感じたんですか?」

いや、嘘だけど。」

:

もうSWG刹那ちゃんは突っ込んでたまるかといった具合だ。

「だがそこは突っ込みどころじゃないんでな、馬鹿め!」

`なんか負けた気がします...」

疲れた顔したSWG刹那ちゃんが言う。

まおう。 ... まぁ朝の時間帯はそんなに時間がないのでさっさと終わらせてし

「じゃあ、ありがとうね、あとごめん。」

すか!?」 あ はいそうで...ってなんであなたがお礼と謝罪をしているんで

あぁそうだね、じゃあよろしくお願いします。

す ごめんなさい。 ... なんか変な感じです。 今度何かお礼をさしてもらいますね。 えっと助けてくれてありがとうございま あと、 にらんでしまって

別にいいさ、お礼は今度会ってからで。

ぁ はい。 それではもうすぐ時間がギリギリなのでいきますね?」

「うん、じゃあね。」

そういって俺たちは互いに礼をして帰ってゆく。

「じゃあね魔法剣士キリサキ刹那ちゃん!」

全力逃走を開始する!

「なんですかそのよび...え?・・ボケ逃げ!?」

弟七話『ルームメイト』(前書き)

草へと手を伸ばす。 少女とは全く逆の立場だけど。 わかるやつはこの場にはいない。 天音光輝「 -・もう一人の転生者は、 両親を失った悲しみ、それについて自分以上に 転生者は両親を失った、 目の前 の泣いている少女、 --こ の

が、転生者は心の中で隠し通す。 だからこそ手を伸ばした、それはこの少女を利用しているとい ても反論はできないことをしているのだろう、それは理解してい 正義の味方、ネギまという原作は読んだことがあるし、 ても反感がある、そして今、その犠牲者が目の前にいる。 そ れにつ わ た L١ れ

ボロボロになった自身はあぁ終わったのかと諦め目をつぶる、 だがしかし、この少女はどんなにボロボロでも後ろをついてくる。 とどめをさそうと拳を振り上げる。 だからこそ戦いは必然...ぶつかり合う魔力、そして勝った そこにもう一人の原作にはいないはずの少年がいた、少年は怒って そして、原作の始まり、リョウメンスクナノカミの封印を解く場面 辛辣な修行、 いた、転生者.. ・・だからだろうか、この少女がいとおしくなってしまったのは 鬼畜と呼ばれても仕方がないほどのことを差し向け 俺のやったことに、復讐に手を貸すといった行為に、 のは彼、

・・ふわりと甘い匂いがした。

そこにいたのは・・彼女、千草だった。

涙ながらに俺をかばう...もう女性だったな。

そして・・彼女の独白を俺は聞く。

になっていたこと、 そこには彼女の想いが込められていた、 たこと、 そして、 そして復讐が恋心に包まれてい 一緒にいたかったということ... だんだんと俺のことが好 つの間にか霧散 そして俺は」

呷「まてや、作者が考えていた物語を書くな!」

第七話『ルー

ついでに名前は『西園 勇』るルームメイト、なにこいつ気持ち悪い。 家に帰ってみると、 そこにいたのは肩を抱いて泣きながら笑ってい

なにかあったのか馬鹿」

いきなりばかよばわりかよ!... 聞いてくれ光輝」

断る!」

お前が聞いてきたのに!?」

やはりこの学校は『ツッコミ学園都市』だ、 NNTUKKOMER

がいる。

換して無理やり最後にERをつけただけだ。 TUKKOMERがなにかというと、特に意味はない、 ローマジ変

聞け!聞いてくれ!聞いてください!」

うるせぇ黙れ」

もよさそうな感じにされたらへこむよな?」 なにこれ辛辣!なぁ、 光輝、 同じ歳くらいの中学生に心底どうで

お前の会話が心底どうでもいい」

この鬼畜!」

..といっても俺はドSでもなんでもない。いいだろう、いい二つ名だ。

いよ別に聞くさ、どのくらい罵倒してほしい?この変態」

!」タイミングがおかしいうえに言われたいわけじゃないよ!?」 俺ドMじゃ ねえよ!?いや、 うんさっき中学生がきて「こ の変態

わかった、普通に聞く。」

そういってまっすぐ勇をみる。 ホッとしたように会話をし始めた。

るんだ俺は。 「よかった…っていうかどうでもいい会話にどれだけ時間をかけて えっとな、 さっき中学生がきたんだけどな。

゙うんうん。」

言するかと聞いたら俺の存在がどうでもよさすにされてそのままた そうするとな...思い切りため息をついて、俺がフォローしようと伝 め息を残されて帰って行った。 来てお前がいるか聞いてきたんだ、 それで俺はいないって答えた、

そうか (笑) 辛かったな (笑)」

ゃ 遅かったからもう時間ないぞ?」 あれ、 なんでもい どうしてだろう、 いや、とりあえず食堂いこうぜ、 お前の語尾に何かが見える...、 飯食いにさ。 お前

あ、うん食べてきた。

ێ がフォロー 「... あれ、 俺お前のこと待ってたんだけど、 しなきゃな!』なんて考えてお前のこと待ってたんだけ 俺『記憶喪失だから俺

「...それは本当にすまん。」

「う…うわああああん!」

始めてみた。 中学生男子が「うわあああん」なんて泣きながら走っている光景を

あれ、 ... だがさすがにひどいことをした気がする、 昼飯給食制?じゃあだめだな。 昼飯は奢ってやろう。

- - IN学校

たねー」 「さぁやってまいりました、我が学び舎、 いやぁ時間がかかりまし

報はまだ入ってきて無いようです。 うか?おそらく場所がないと思われるのですが、そこのところの情 「そうですねー光輝さん、 何故寮が徒歩で近い場所にないんでしょ

なにリポーター風にやってんの?テンション高いの?」

「お前にのってやってんだろうがぁぁあ!?」

ち。 そんな叫びをあげる勇、それによって視線を向けられてしまう俺た

俺はゆっくりと勇を遠ざける。

「ちょ、おま、お前のせいだろうが!?」

「や、やめてください!警察呼びますよ!」

「ええええええぇぇぇぇ」

そんなアホな会話をしたがどうでもいいだろう、 かなければな。 さっさと教室に行

記憶がないからついていくしかない。

「ここだ。

ハッピーうれピー よろピクねー

突撃してみる。

教室は沈黙した。

あぁ、 隣の教室だから。

なッ

勇の口元がつりあがる。

にやりと笑いながら、その顔は物語っていた。

画が 通ざ

計け IJ

ふふつ、 僕がやられっぱなしとでも思ったかい?」

記憶喪失の男の子を騙して辱めるなんて最低だ!」

なんとでもいうがよい!フハーハーハー」

悦ん見浸っている勇は気づかずに笑い続ける。 悦に浸っている勇をみて、 俺はゆっくりと教室に入っていく。

·その数分後に真っ赤な顔して勇が戻ってきた。

- - 授業終了

「授業が終わったな。

... 少々退屈だった。

「一緒に帰るか?」

昨日の今日だ、 横に勇がいて、 声をかけてくるが首を振る。 病院に行かなければならない、 あと家族に連絡を。

「病院いってー家族に連絡してーってあるからな。

_

「そうか...まぁがんばれよ」

「あぁ」

勇って異常なほどいいやつだよな。 声を掛け合って帰っていく勇を手を振りながら返す。

「さて、病院にいくか。学園長に書いてもらった紹介状は...あった

さて、行こうか

0

第七話『ルームメイト』(後書き)

主人公が普通の少年だったとは限らない

PDF小説ネット発足にあたって

ビ対応 行し、 など 公開できるように 小説家になろうの子サイ 部を除きインタ 最近では横書きの F小説ネッ の縦書き小説 の縦書き小説 います。 そん をイ を思う存分、 たのがこ な中、 ネッ 書籍も誕生しており、 タテ書き小説ネッ 誰もが簡単にPDF形式 ト関連= ネッ て誕生しました。 堪たD 能のF ト上で配布す 小説ネッ 横書きという考えが定着しよ てください。 トです。 既 存書籍 は 2 の タイ 0 いう目的の基 07年、 の電子出版 小説を作成 小説が流 ンター

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。 http://ncode.syosetu.com/n5309y/

なんかもうどうでもよくなってきた

2011年11月22日23時48分発行